

(仮称) 盆栽アカデミーの方向性について

1. 各計画における位置付け

(1) さいたま市総合振興計画次期実施計画（平成26年3月）

盆栽文化を国内外に発信し振興を図るため、(仮称)盆栽アカデミーの開設に取り組む。

(2) しあわせ倍増プラン2013（平成25年12月）

盆栽文化の振興 (2) 各年度の目標と取組内容 平成28年度の取組内容、(仮称)盆栽アカデミーの実施。

(3) さいたま市成長戦略（平成26年4月）

(仮称)盆栽アカデミーをはじめ、各種施策の推進による大宮盆栽美術館の来館者増を図る。

(4) さいたま市文化芸術都市創造計画（平成26年3月）

大宮盆栽美術館を拠点とした盆栽文化の振興 <取組例> (仮称)盆栽アカデミーの実施。

＜参考＞

●さいたま市盆栽公苑構想基本計画（平成 15 年 3 月）

盆栽の文化、技術の継承及び普及のための学習研修機能

●大宮盆栽美術館振興アクションプラン（平成 23 年 3 月）

【さいたま市大宮盆栽美術館アクションプラン評価業務報告書（平成 25 年 3 月）】

検討に着手した“(仮称) 国際盆栽アカデミー”を中心に、「盆栽村と連携したまちづくり」や「盆栽文化の普及」に取り組み（中略）世界に向けたさいたま市大宮盆栽美術館として、存在価値をいっそう向上していくことが望まれる。

2. 大宮盆栽をめぐる現状と課題

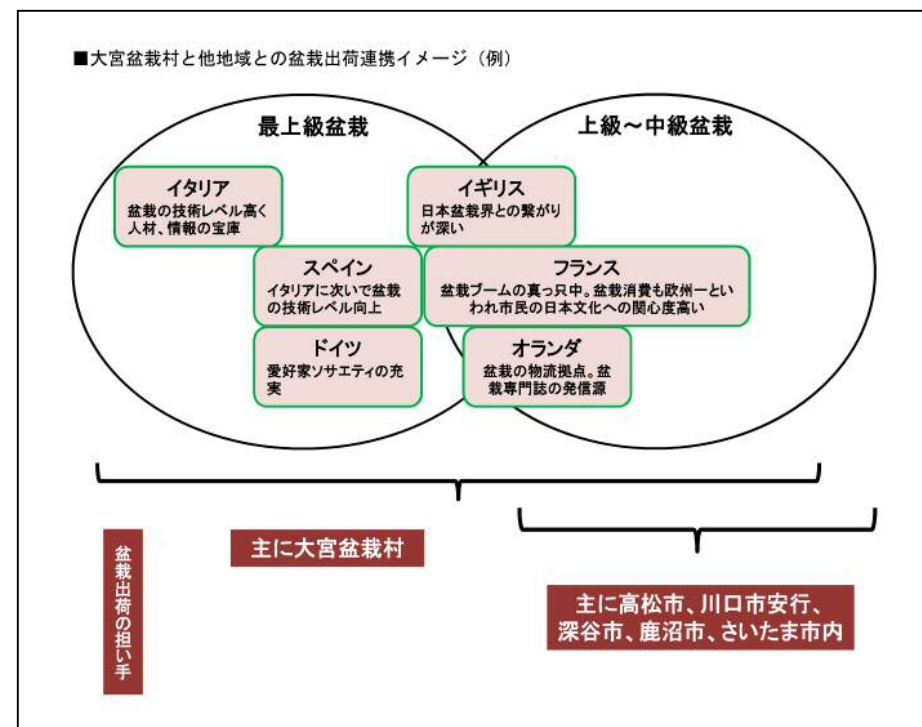
「現状」と「課題」を分析するため、昨年度、市内盆栽園の各園主など盆栽関係者や有識者に対してヒアリングを実施した。

<ポイント>

- 大宮盆栽村の地価高騰、日本人の価値観の変化(日常と盆栽との関係が疎遠)
⇒ 産業としての発展、後継者育成が難しい環境へ
- 国内での若い世代の興味(旧来と異なる捉え方)の高まり。
⇒ 新たな愛好者の増加の見込み
- 海外での「盆栽ブーム」
⇒ 盆栽愛好家の数は日本を上回っている。

(1) 現状

- 大宮盆栽村は20園以上あった盆栽園が、現在では**6つの盆栽園**を残す程度。
- 「大宮盆栽」は**世界一のブランド**として、海外でも広まりつつある。
- 大宮盆栽村では、海外での指導、連携に取り組んでおり、少数だが海外研修生も受け入れている。
- 2017年(平成29年)「**第8回世界盆栽大会**」のさいたま市**開催が決定**している。



(2) 課題

- 国内愛好家は高齢化・先細りの傾向にある。
- 親から引継いだ盆栽に対する維持管理の方法を求めるなど要望があるが、**指導できる技術者が少なくなっている**。
- 若い世代に興味を持つ人がいるものの**本物を見る、本質を知る機会が少ない**。
- **海外では盆栽愛好家の数は日本を上回り、盆栽が持つ文化や精神性への希求があるが教える場がない**。

3. 大宮盆栽美術館の取組の現状

＜大宮盆栽美術館の方針＞

盆栽を中心として、盆器、水石、絵画資料、歴史・民俗資料などの紹介により、さいたま市の伝統産業にも指定されている盆栽文化を、ひろく内外に発信することを目的に活動する。活動の柱として、3つの方針を掲げている

I. 盆栽に関わる研究センター

盆栽の歴史や意義を、多様な観点から研究してわかりやすく公開し、講座、講演会などの普及事業を開催する。

II. さいたま市の新しい観光拠点

盆栽のすばらしさに気軽に触れられる、さいたま市の新たな観光拠点を目指す。

III. 盆栽産業活性化の一助

多くの方が盆栽に親しむきっかけをつくることで、伝統産業の活性化をはかる。



① 展覧会事業

- 常設展示：所蔵盆栽の展示が当美術館の中心になり、季節に合わせ開催。
- 企画展示：調査研究に基づき盆栽文化を体系的に理解してもらうため、様々な視点で開催。

② 普及事業

- 盆栽を歴史的視点、美術的視点並びに育成管理的な視点など多様な観点から、講座や講演会などを開催。
- 児童・生徒に対する盆栽学習を実施。

③ 海外広報

- 大宮盆栽美術館運営委員会の下部組織として海外広報に関する知識と経験豊富な専門家からなる海外広報専門部会を設置。パンフレット等の制作物の改善を図るとともに、メディアの活用方法やWebサイト改善について検討。

盆栽技術・学術の進展を求める声は国内外にあり、その受け皿が求められているものの、定量的なニーズ把握は十分にできていない。

4. **(仮称) 盆栽アカデミーの今後の進め方 (案)**

- ※開設時においては、**基礎的な技術を中心とした短期間（1日～1週間）**の講座を実施。その後、より高い技術レベルに応じたカリキュラムなど構築し**講座の期間、内容を充実**していくことにより、**需要を高め**盆栽専門の学習機関を目指していく。
- ※（仮称）盆栽アカデミーの活動は、「盆栽文化」の振興に向けて、大宮盆栽美術館相互に補完し合う関係となることから、当面は、**大宮盆栽美術館の内部組織**とする。

平成26年度

- **基本構想・基本計画策定**
 - ・ 需要調査（将来を見据えた計画）
 - ・ カリキュラム、講師等の検討他
- **プレ講座の実施（ニーズの把握、PR）**

平成27年度

- **開設準備**
 - ・ 講師決定、カリキュラム、教本作成
 - ・ プレ講座の実施（ニーズや課題の把握、PR）

平成28年度

- **開設準備**
 - ・ プレ開講（カリキュラムに基づく講師による講座の実施）
- **開設（平成29年3月）**
 - ・ 短期間（1日～1週間）の講座を開設

平成29年度以降

- **世界盆栽大会4月下旬開催予定**
 - ・ 盆栽専門の学習機関を目指し段階的にカリキュラム等の内容の充実を図って行く。

5. (仮称) 盆栽アカデミーの目指す姿

盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ「盆栽専門の学習機関」

(1) アカデミーの役割

- 大宮盆栽美術館のこれまでの取組を踏まえ、趣味の対象という印象を持たれていた盆栽を、日本を代表する文化の一つに発展させる。
- 盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ機関としての役割を担う。
- 国内外を問わず盆栽に関心を持つ人や携わる人を増やす。

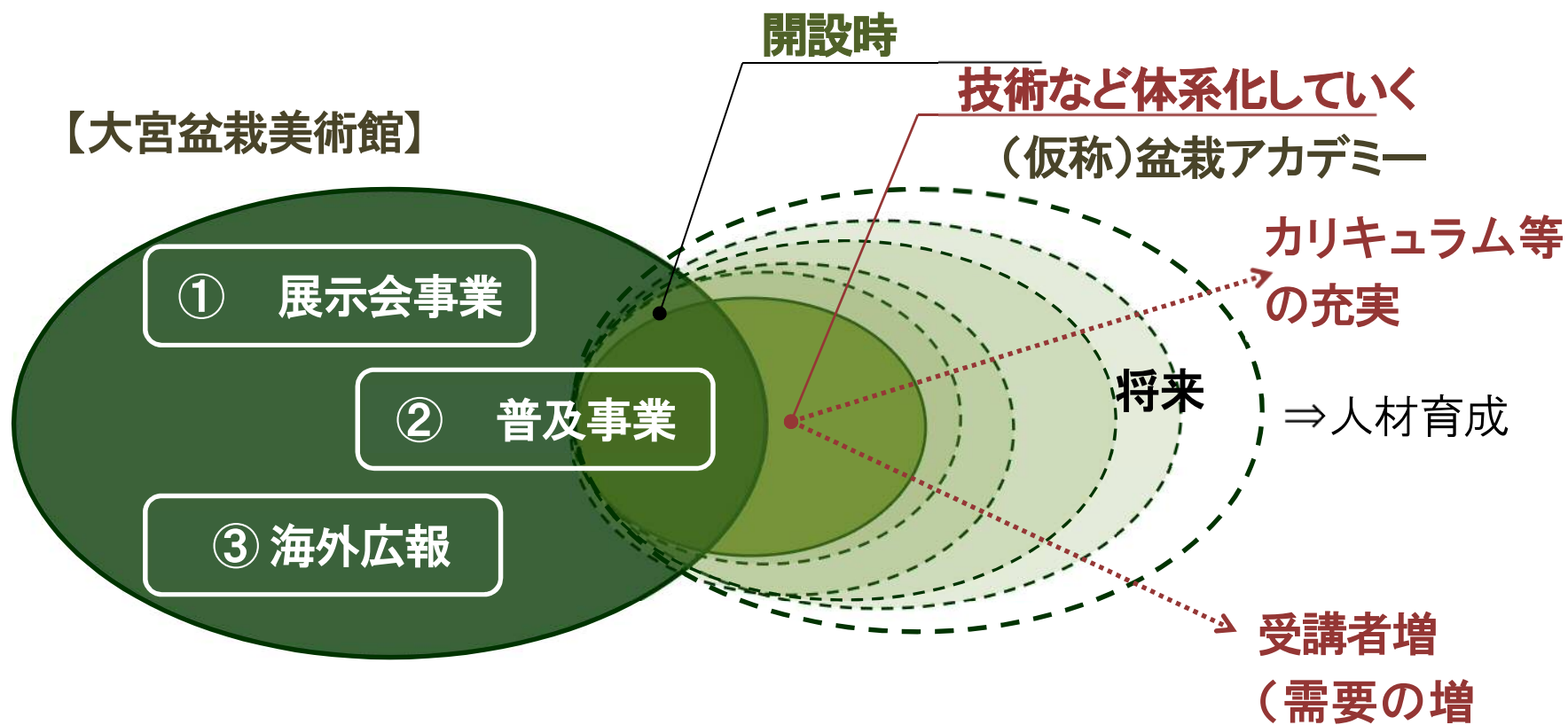
(2) アカデミーの対象

- 国内外の盆栽従事者や愛好家、その他の盆栽を専門的に学ぼうとする者。

◆参考 想定するカリキュラム

- ・ 技術: 仕立技術、培養環境、繁殖技術など
- ・ 作法: 盆栽理念、水石、景道
- ・ 病理: 植物病理の基本、病理実務、病理学的裏付け
- ・ 文化: 盆栽とその周辺文化、園芸文化との関わりと分岐

【大宮盆栽美術館と(仮称)盆栽アカデミーの関係図 (イメージ)】



(仮称)盆栽アカデミーは大宮盆栽美術館での調査研究などを基に発展させていく。

6. 将来に渡っての課題

○運営体制

アカデミーの業務を大宮盆栽美術館の現在のスタッフが兼ねる場合、提供する講座等の内容を充実させるために時間がかかることが想定される。このため、**アカデミーの運営体制について検討が必要**である。

○カリキュラム・教材の作成、及び講師・指導者の協力

盆栽を専門とした研究者はいないが、盆栽の専門家、技術者及び**盆栽周辺の分野の研究者**や**指導者の協力**をいただき、カリキュラム・教材などを**体系的に構築**していく必要がある。

○場（座学・実習・培養・保管）の整備

当面、アカデミーでの講座は、大宮盆栽美術館及び周辺の公共施設などで実施することとしているが、講座の期間、内容など、さらなるカリキュラム等の充実を図ることにより**講義・講習**や**盆栽の培養、保管場所**を新たに確保する必要が生じてくる。